節水と水の有効利用にご協力ください。

高松市民みんなの力で「渇水」を乗り切ろう。

ベテラン主婦の知恵袋 SERIES

私たちの街、「高松」の「水」を考えてみましょう。

◆水不足に立ち向かった先人たちの知恵

四国の風土の特徴は、太平洋側では雨量が多く、瀬戸内海側は極端に雨量が少ないことです。香川県は典型的な瀬戸内式気候で、人々は昔から水不足に苦しめられてきました。特に、稲作中心の農村では、渇水になると水争いが起きるほど深刻なものでした。そのため、讃岐平野のあちこちに農業用水を確保するためのため池が造られました。水田ごとに水の持分を決めた「水ブニ」や、水田への配水時間を線香の燃え尽きる長さで決めたという「線香水」、稲の株ひとつひとつに水をやる「ヤカン水」など、苦労と工夫が見て取れます。

田んぼの稲穂が色づき始める9月初旬、ひょうげな(滑稽な)格好をした地域の人たちが練り歩く伝統行事、高松市香川町浅野地区の「ひょうげまつり」は、江戸時代、同地区の「新池」の築造を指導した矢延平六の功績を称え、水の恵みに感謝し、豊作を祝うための祭りで、いかに先人たちが水の確保に苦労し、水を尊んでいたかが伺えます。

◆現代における水不足と節水

高松市は、もともと雨量が少ないという気候的な問題や、河川の勾配が急で短いなどの地形的な問題など、水利用には極めて不利な地理的条件を抱えています。

昔から、水不足に悩まされていた高松市にとって、昭和49年の香川用水通水は長年の悲願であり、水不足を解消する切り札になるはずでした。

しかし、香川用水の通水から35年たった今、水需要が通水当時より増えたことに加え、近年の異常気象による少雨傾向のために、高松市は再び水不足に悩まされるようになっています。

このため高松市では、県が進める椛川ダム建設事業への参画や奥の池周辺地下水の活用など、新たな水源の確保を行っています。

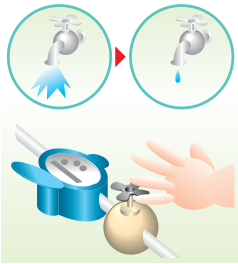
水は限りある資源です。ダムも香川用水も無かった時代に生き、水不足に立ち向かった先人たちにならい、今一度、水の大切さを、そして、それぞれの立場でできる節水について、考えてみましょう。

自主減圧の仕方

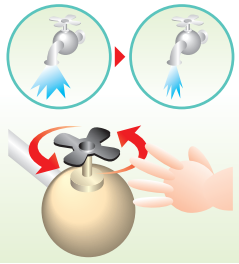
①メーターボックス内にある止水栓バルブの位置を確認してください。

②水道の蛇口を全開にして、水量の確認をしてください。水量確認後、いったん蛇口を閉めてください。

③止水栓バルブを右に回し、一度完全に閉めて、水道の蛇口で水が止まっていることを確認してください。



④閉めた止水栓バルブを左に一回り開け、蛇口の水量を確認してください。通常の半分くらいの水量であれば完了です。



注意事項

1. メーターボックスや止水栓バルブの場所がわからない場合は、水道局までお問い合わせください。
2. 止水栓が効かない（閉めても水が止まらない）場合や、ハンドルが動かない場合、止水栓のハンドルが無い場合は水道局までご連絡ください。
3. 瞬間湯沸器を使われているご家庭は、止水栓バルブを1回り開けた後、瞬間湯沸器が正常に作動するか確認し、正常に作動しない場合は、止水栓バルブを少し開けてください。

最新の渇水情報は・・・ 高松市渇水情報 検索 http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/8101.html

○詳しくは、高松市渇水対策本部（水道局お客さまセンター ☎839-2731）までお問い合わせください。

蛇口の語源 「ライオン」から「龍」へ、そして「蛇」へと姿を変えた「蛇口」

日本で始めて水道が開設されたのは、明治20年の横浜。今のように各家庭に配水されていた訳ではなく、道路脇に設置された共用栓から水が供給されていました。

当時の共用栓はイギリスからの輸入品が多く、ヨーロッパの水の守護神とされる「ライオン」をかたどったレリーフの口から水が出る仕組みになっていました。それが、日本で共用栓が作られるようになると、中国から伝来し、日本の水の守護神となっていた「龍」のデザインへと変わっていきました。

当初、その形から「龍口」と呼ばれていた共用栓は、龍は蛇の姿で地上に姿を現すという伝承、あるいは、共用栓よりも小さい家庭用の栓であることから龍の子、すなわち蛇ということで「蛇口」と呼ばれるようになったと言われています。